

Title	支部通信
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1937), 18(200): 68-70
Issue Date	1937-11-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167569
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

更生した 神戸支部第一回例会

場 所 神戸市神戸区築町通二丁目 昭和ビル六階海運クラブ室

日 時 昭和12年10月23日18時

出席者 20名

神戸支部の會合は最近絶えてあつたので今日相見る人は殆んど始めての人許り。しかし名刺交換などにてなごやかな交りが直ちに結ばれる。

18時40分改發氏進行係となり開會の挨拶あり。ついで會員各自の自己紹介あり。終つて早速議事に入る。

山本先生始め會員諸兄の活潑な意見の開陳あり。略、次のやうな諸事項が決定せられた。

1. 例会は毎月一回適當な土曜夜に開く事。
1. 会場は神戸市 Y. M. C. A. と提携の方法を講ずる事。
1. 支部會費は年額1圓とする事。
1. 今年十月より向ふ一ケ年の任期として美田、神田、柳部、乾を世話人に推す事。
1. 會則は原案の準備もなく、又山本先生のお獎めの如く、例会が事務的な種類の協議に煩はされて終始するを嫌ひ、制定は別の機會まで延期せり。
1. 會誌は大阪支部の様式をとらず、會員の連絡、諸集會の報告を主として、研究發表機關とはしない事。

終つて美田、神田、柳部、乾は別室に退き、役割分擔、又會の今後の方針に就て協議。

1. 美田、神田は記録及會計一般を預かる。又今後神戸支部の事務所は美田方に置く事。
- 柳部、乾は例会その他の集會、及事業の企畫に當り、その方面の準備をする。又乾は例会毎の記録をつける事。
1. 11月例会は13日19時、Y. M. C. A. に於て開催。

大體この二項を決定、當日出席會員に直ちに報告。

本會の趣意とする天文に關する話題は會員自己紹介の時を始めとし、又、山本、田中、井本等老練なる先輩のリードにより、會の終始を貫き、22時半ビルの閉鎖時刻が來て立退きを命ぜられた時、尙残り惜しい感じで一杯であつた。

京都・京星會だより (10月)

北支、上海の野に、又東支那の海上に、吾等の兄弟は早くも訪づれた寒冷に晒されながら、祖國の使命を果すために活躍してゐる。會員の軍務公用あり、會員家族の出征もあつた。それだけに事變に對する關心は大きく、事變に際しての天文趣味、又は團體の活動といった事もよく研究されてゐる。表面的に出る活動を避け、會員各個の素質の向上と會の餘力蓄積を計り、一般人に對する文化的活動は一時中止、華々しい活動と一層の大發展は戰勝後へといふ目標である。

○會誌「京星」第15號

事變に影響されずに趣味を養ふ吾等會員の研究誌として、會誌「京星」第15號は豫定通り10月下旬發行された。この會誌は學界、先輩の指導協力を求めるために毎號各方面に配呈されてゐる。内容は次の通りで44頁。

ベル1 徒然草—花山天文臺柴田淑次 宇宙の構造—ジ1ンズ佃泰三譯 基礎天文講座
 “星の名”—宇野良雄 太陽觀測と望遠鏡—伊達英太郎 額縁應用の星座圖の作り方—
 高井博典 アマチュアと詩—河合孝一 なつかしき月—山田彌一郎 漢口の空—笹部
 榮一 大津の藤井天文臺—西村繁次郎 天文雜報 編輯後記

○天文急報「回報」

事業通知、會員消息、神戸支部の活動等を掲載した「回報」第27號及び第28號が發行された。

○觀測指導會

毎年行はれる初歩の實際觀測手ほどきの會が16日夜催される豫定で、印刷物が作られ各方面の指導者も決定されたが、當日は生憎雨で月齡の關係もあつて延期も出來ず中止になつた。

大阪支部通信 (10月)

◆大阪支部4月以降8月迄の通信は天界9月・10月號に發表してありますので、其以後の事業を報告致します。

◆銀河第1卷第3號目次 表紙・地球と火星の軌道、口繪・密着燒寫眞火星のスケッチ、扉・黃道十二宮の歌、卷頭言・古代日本と時(S.I) 火星觀測歴史

(伊達) 火星觀測論(渡邊) 星のぞき(イグレック) 星座圖形傳說(宮森) 近畿の降星傳說史蹟(津久井) 瀬戸黃道光觀測所(荒木) 火星の觀測(伊達) 火星の像縁の突出物(渡邊) 觀象漫吟(改發) 南島北國(大口) 通信(久井) 滿洲國時憲書(志龍須) 天文街 漫步士)

◆銀河第1卷第4號 表紙・天王星位置、口繪・密着燒寫眞天球儀、扉・明治天皇御製、卷頭言・カガミ(老人星) 七夕の文献と傳說(宮森) 變光星雜話(西川) 月齡速算法(谷口) 星のぞき(イグレック) 黃道光問題(瀬戸觀測所) 近畿の降星傳說史蹟(津久井) 突飛句(天狗) 徵古館・神宮文庫(西森) 天文街(大口)

◆銀河第1卷第5號 表紙・月體圖、口繪密着燒寫眞フィンスラ1彗星(知新) 扉・明治天皇御製、卷頭言・宇宙の美(田中博士) 新反射鏡(伊達) 黃道光と薄光(瀬戸觀測所) 變光星雜話(西川) 星のぞき(イグレック) 京都の降星傳說と史蹟(津久井) 星座圖形傳說(宮森) 生駒山と天體觀測(西森) 生駒山の挿話(天涯) 星の舞踊(足駄) 火玉(土陽) 大流星(北野) 某蒼友人(改發) 天文街・4(漫步士)

◆以上を夫々5・7・9月の各5日に發行しました。9月例會は11日をぐらやにて開催、「本邦天文學史論」を井本氏、「通俗氣象學講話」を宮森支部長が話され、天文談話會に移り出席者19名にて盛況。

◆9月18・19日の仲秋名月觀望會は兩日共惡天候にて中止、19日は其でも熱心な支部員參加、ペル1日食歸朝間もない元氣な山本會長を迎へて山上にて土産話を聴き、喜久舞塾の軍國調觀月舞踊を會長始め一同見學しました。

柏 原 中 學 校 よ り

9月4日、本校の先輩三高の小林兄がわざわざ來校下され、出席者本校生徒(私共)11名、總計12名を以て天文座談會を開きました。兄のもとめにより天文に對する各自の感想を書き、前の觀望會の事、書籍の紹介、星の親しみ方、生駒山頂觀望會の話、望遠鏡裡の遊星等、種々様々の話題が出、又質問應答等、頗る愉快に時を過しました。長い休暇後久しぶりで、又小林兄とは半年ぶりの會合でありましたので、中々話題盡きず、惜別の内に次の會を約して別れました。以上。